

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	准教授	氏名	小山憲一郎
---------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2013年3月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、学位（博士（医学））を取得。2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、マインドフルネスとセルフコンパッションを中心にネガティブな感情の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。特に肥満症に対してマインドフルネスを用いた治療の効果やオベスティ・スティグマについての研究に参加しており、2020年にMindfulness Based Eating Awareness Training (MB-EAT) のQualified Instructorを取得しています。公認心理師・臨床心理士です。また、ゼミ生の学会発表、論文執筆・投稿を積極的にサポートしています。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

ポジティブな映像と抑うつ的音楽の関係フレームづけに関する心理学的実験 高倉雄大・小山憲一郎  
福岡県立大学心理臨床研究, 17巻 2025 3月発刊予定

- ・ 減量のための集団療法にマインドフルネスを使用した経験と今後の可能性について 小山憲一郎  
日本心療内科学会誌 Vol. 28, No.3, 2024,23-30.
- ・ マインドフルネスを用いた肥満症治療はリバウンドを防止できるか？ 野崎剛弘・小山憲一郎・横山寛明・西原智恵・小牧元・須藤信行 日本心療内科学会誌 Vol. 28, No.3, 2024,38-45.
- ・ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ 吉岡 和子, 中藤 広美, 小山 憲一郎, 福田 恭介, 古賀ななこ 福岡県立大学 心理臨床研究 16, 35-53, 2024  
保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究 伊勢 慎, 小山 憲一郎 保育学研究 61 (2), 161-172, 2023-12-31  
Hunger Rumination Scale 開発のパイロット研究 —MB-EAT に関する基礎研究— 小山憲一郎 福岡県立大学人間社会学部紀要 32 (1), 55-64, 2023-10  
困難克服過程で受けた支えに対する感謝が成人期以降の時間的展望に及ぼす影響 - 世代継承性を育む体験の一つとしての子育てに着目して— 下満 由貴, 小山 憲一郎 福岡県立大学心理臨床研究 15 7-16, 2023-03-31  
ディタッチトでマインドフルな気づきは、直接的かつ即時的にポジティブ感情を高める作用を持っている；小確幸発見体験という Positive Side Effect of the Detached Mindfulness 小山 憲一郎, 穴繁結奈 福岡県立大学人間社会学部紀要 31 (2), 35-46, 2023-03-01  
コミュニケーション回避としての発言抑制発生機序モデルの検討 小山, 憲一郎, 尾首, 優花 福岡県立大学心理臨床研究 14 3-11, 2022-03-31  
減量・代謝改善手術のためのメンタルヘルス・ガイドブック 2022 評価と対応に関する Q&A 日本肥満症治療学会メンタルヘルス・行動医学部会 Kindle

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・九州心理学会 第85回大会公開講座 講座A：マインドフルネスという古くて新しい心の在り方：や

わらかく、強く、やさしい在り方 小山憲一郎

- ・ ポジティブな映像と抑うつ音楽の関係フレームづけに関する心理学的実験  
高倉雄大 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
  - ・ 困難克服過程で受けた支えに対する感謝体験尺度作成の試み 下満由記 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
- 大学生の就職活動場面におけるストレスの緩和に関する研究-ディタッチト・マインドフルネスとあいまいさへの非寛容に着目して- 竹田健人 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
- 肥満症に対する認知行動療法およびマインドフルネスのアップデート&トークセッション 第42回 日本肥満症治療学会メンタルヘルス行動医学部会セミナー@横浜 小山憲一郎
- シンポジウム1 肥満症の闇と光〜スティグマとマインドフルネスの観点から〜 S1-2 肥満症のセルフスティグマからの回復—マインドフルネスの実践を通して— 小山憲一郎 第31回西日本肥満研究会@久留米

## ② 過去の主要業績

The relationship between premorbid intelligence and symptoms of severe anorexia nervosa restricting type. Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Takamasa Fukumoto, Suguru Kawazu, Mihoko Kawamoto, Eriko Yamaguchi, Yuuki Fuku, Marie Amitani, Haruka Amitani, Ken Ichiro Sagiya, Akio Inui, Akihiro Asakawa. Int J Med Sci. 2021 Feb 4;18(7):1566-1569. doi: 10.7150/ijms.53907. eCollection 2021.

- ・ Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Marie Amitani, Haruka Amitani, Akio Inui (2018)  
Case Report: The Effectiveness of Cognitive Behavioral Therapy with Mindfulness and an Internet Intervention for Obesity: A case series *Frontiers / Nutrition*

Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain. Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshihiro Nakahara, Haruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui, *Nutrition* ;28:1132-1136. 2012 (学位論文)

## 3. 外部研究資金

科研費 オベシテイスティグマの多施設実態調査-肥満に対する差別的感情が診療に及ぼす影響-  
2023 - 2026 分担研究者

科研費 アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討 2021-  
2024 分担研究者

科研費 マインドフルネス食観トレーニングに関する基礎研究 研究代表者 2021 - 2025

## 4. 受賞

特記事項なし

## 5. 所属学会

日本認知療法・任地行動療法学会 日本肥満症治療学会 日本心身医学会 日本マインドフルネス学会 日本保育学会

6. 担当授業科目

健康・医療心理学 障害児・障害者心理学 臨床心理学特論 臨床心理面接特論 II 公認心理師の職責 不登校・引きこもり支援論など

7. 社会貢献活動

日本肥満症治療学会メンタル行動医学部会 委員 同委員会 オベスティ・スティグマ小部会委員  
査読：Bio Psychosocial Medicine, Review Editor on the Editorial Board of Eating Behavior (specialty section of Frontiers in Psychology and Frontiers in Nutrition), 福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

特記なし

9. 附属研究所の活動等

特記なし